

1. 学歴

- 1984年 3月 東京外国語大学外国語学部卒業
1984年 4月 東京大学大学院人文科学研究科修士課程入学
1987年 3月 同修了
1987年 4月 同博士課程進学
1991年 3月 同単位修得退学

2. 職歴・研究歴

- 1991年 4月 一橋大学経済学部専任講師
1996年 7月 文部省在外研究員およびロンドン大学ウォーバーグ研究所客員研究員(1997年5月まで)
1997年 5月 ロンドン大学ウォーバーグ研究所客員研究員(1998年3月まで)
1998年 4月 一橋大学大学院経済学研究科専任講師
2001年 1月 一橋大学大学院経済学研究科助教授
2007年 4月 一橋大学大学院経済学研究科准教授

3. 学内教育活動

A. 担当講義名

(a) 学部学生向け

英語II, 英語圏地域文化論, 経済文化(英米)

(b) 大学院

各国経済思潮

B. ゼミナール

学部前期, 学部後期, 大学院

C. 講義およびゼミナールの指導方針

学部の講義では、哲学または政治思想の英語テキストを教科書として、語彙・語法・文法の点で正確に英語を読解する訓練を行ない、学生が将来企業・大学院で英語文献を読むための基礎を築くことを目標とする(「英語I・II」)。上級レベルの授業(「英語圏地域文化論」・「経済文化」)では、一定分量の英語テキストを読んできてを求め、意見を発表し討論するよう促す。これらの授業では、現代イギリスの社会・経済に関する書物(労働者階級文化と社会移動, EU 離脱とポピュリズム勃興の関係についてなど)を教科書に選ぶ。

大学院の講義では、人類史, 政治思想史, 開発経済学などに関する英語の書物を教科書として輪読する。演習では、古代ローマ共和制・帝政期のラテン語文献(キケロ, リウィウス, ホラティウス等)を輪読する。

4. 主な研究テーマ

(1)ルネサンス期の人文主義・修辞学全般。

現時点では、特に以下の個別テーマを研究している。

(2)ロレンツォ・ヴァッラの文献学・ラテン語論に関する研究(リウイウス第 21-26 巻のテキスト修正、『ラテン語の典雅』を対象とする)。

5. 研究活動

A. 業績

(b) 論文(査読つき論文には*)

「ルネサンスにおけるキケロ主義論争」『一橋大学研究年報 人文科学研究』第 36 巻, 1999 年, 269-333。

「ポリツィアーノの〈自己表現〉について」『言語文化』(一橋大学語学研究室)第 36 巻, 1999 年, 67-76。

「ルネサンス修辞学の諸主題—パーオロ・コルテージの『学識ある人々について』から」『一橋論叢』第 123 巻 第 3 号, 2000 年, 446-460。

「15 世紀イタリアの修辞学思想」『一橋大学社会科学古典資料センター Study Series』No. 55, 2006 年, 1-27。

「ジョアシャン・ベリオン『最良の翻訳法について』」『人文・自然研究』(一橋大学大学教育開発センター)第 12 号, 2018 年 3 月, 4-32。

「ポリツィアーノ『雑纂』第 1 集の文献学的方法」『一橋大学社会科学古典資料センター年報』第 38 号, 2018 年 3 月, 16-25。

「ロレンツォ・ヴァッラ『ラテン語の典雅』」『人文・自然研究』(一橋大学全学共通教育センター)第 13 号, 2019 年 3 月, 16-40。

(c) 翻訳

ジェフリー・グリグスン『愛の女神—アプロディテの姿を追って』(共訳), 1991 年, 書肆風の薔薇, 321 頁。

レイモンド・クリバンスキー, アーウィン・パノフスキー, フリッツ・ザクスル『土星とメランコリー—自然哲学, 宗教, 芸術の歴史における研究』(共訳), 1991 年, 晶文社, 674 頁。

D・P・ウオーカー『古代神学—15-18 世紀のキリスト教プラトン主義研究』, 1994 年, 平凡社, 367 頁。

チャールズ・B・シュミット, ブライアン・P・コーベンヘイヴァー『ルネサンス哲学』, 2003 年, 平凡社, 512 頁。

ロレンツォ・ヴァッラ「『ラテン語の典雅』序文」, 池上俊一監修『原典 イタリア・ルネサンス芸術論』, 2021 年(刊行予定), 名古屋大学出版会, 所収。

6. 学内行政

(b) 学内委員会

『人文・自然研究』編集委員会委員(2016 年 4 月 - 2017 年 3 月, 2018 年 4 月 - 2019 年 3 月)

語学研究室室長(2020 年 4 月 -)